

第3学年美術科学習指導案

日時 平成25年10月10日(木) 5校時

場所 矢巾北中学校 美術室

対象 矢巾北中学校3年3組34名

(男子14名 女子19名)

指導者 田中 桃子

1 題材名「様々な表現との出会い」 B鑑賞

2 題材について

(1) 題材の位置づけ

本題材は1時間「B鑑賞」の独立した題材である。学習指導要領では第2学年及び第3学年の鑑賞の目標を「自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見解を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める」と定めている。

上記の目標に基づき、本題材では美術作品に関心を持ち、理解を深め、自分の価値意識をもって味わわせるねらいである。作品に対する知識理解を前提とするのではなく、よさや美しさなどを豊かに感じ取ることに重きを置き、視野を広げどんな特徴があるのか味わわせたい。生徒同士のグループでの話し合いから出てきた作品に対する印象や考えを、文章としてまとめ、発表(説明)しあうことで言語活動の充実を図り見方や感じ方を広げたい。

(2) 生徒の実態

生徒の学習態度は落ち着いており、作品制作に意欲的である。これまでは制作の中で互いの作品を鑑賞することが中心であった。3学年ではピカソや郷土の作家について鑑賞し、作家の画風・生き様や当時の時代背景についても興味をもって取り組んだ。また、自画像の題材では、ゴッホの作品について鑑賞している。

美術鑑賞に対し興味をもっている生徒は多いが、美術館に足を運ぶなど日常的に美術鑑賞に親しんでいる生徒は少ない。自分の思いや心情を様々な方法で表現できるという素晴らしさ、おもしろさを知ってほしい。自分の感じたことや考えたことを発言できる受容的な雰囲気づくりを行い、個人とグループの活動を組み合わせながら、鑑賞を深めたい。

3 題材の指導目標

(1)美術作品に関心を持ち、作者の意図、表現の工夫などを読み取り、そのよさや美しさなどを感じ取る。

【鑑賞の能力】

(2)他者と意見交換しながら美術作品についての見方を広げ、鑑賞の喜びを味わう。

【鑑賞の能力】

(3)多様な価値を認め、尊重しながら、美術を愛好する心を育てる。

【関心・意欲・態度】

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none">・形や色彩などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じとろうとしている。・作品の見方や味わい方を学び、造形的なよさや美しさ、作者の心情や多様な表現などについて感じとろうとしている。	<ul style="list-style-type: none">・最初の印象や直感を大事にししながら、形や色彩などの特徴や印象などから、全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。・作品に対する思いや考えを述べ合い、互いの意見を尊重しながら、見方や感じ方を広げている。

5 題材の評価

領域	主な学習活動	B 評価の規準	A 評価の規準
鑑賞	○作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさ、特徴に関心を持ち、鑑賞することを楽しんでいる。	関① ：作品に興味をもち、よさを味わおうとしている。 【鑑賞様子・学習シート】	・作品に強い関心を持ち、深く味わおうとしているとともに、意欲的に学習に取り組もうとしている。
	○作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさ、特徴を感じ取り、理解を深める。	鑑① ：作品全体のイメージ、自分の価値意識を持って味わっている。 ・表現の意図や特徴を感じ取り、理解しようとしている。 【鑑賞様子・学習ノート】	・自分の価値意識を明確にもって鑑賞し、味わったりしている。 ・形や色彩などの表現の意図や特徴を多数感じ取り、理解を深めようとしている。
	○話し合い活動を通じて、互いの鑑賞の視点、考え方などに気づき、見方や感じ方を広げる。	鑑② ：他者の考えを聞き、多様な見方で認めることができる。 【鑑賞様子・発言内容・学習ノート】	・他者の考えを意欲的に聞き、多様な見方で積極的に認めることができる。
	○感じ取った考えを言葉で整理し、まとめ、表現しようとする。	鑑③ ：感じ取った考えを言葉で整理し、まとめ、表現できる。 【発言内容・学習ノート】	・感じ取った考えを造形的な視点で分かりやすく言葉で整理し、まとめ、積極的に伝えることができる。

6 本時の目標

(1) 目標

美術や文化に対する理解を深め、作者の表現の工夫を感じ取り、作品の見方の幅を広げて表現の多様性を理解することができる。

(2) 本時の指導構想

本時では、美術作品をじっくりと鑑賞することに重点を置き、表現方法の特徴を感じ取らせる。また、補助作品と比較することで表現方法の違いに気づくとともに、作者独自の表現を求める普遍的な心情にも触れ、美術作品のよさや美しさなどを味わわせる。

グループでの話し合いの場面では、話し合いの前に個での思考の時間を確保し、感じ取ったことを自分の言葉で整理させるようにした。自分の考えをもって話し合いに参加することで、お互いに作品の見方、感じ方を広げることができると思う。また、次のような言語活動を取り入れ、作品について理解を深めるとともに、鑑賞することの楽しさに気づいてほしいと思っている。

〈「思考力・判断力・表現力等」を育てるための言語活動の充実のためのポイント〉

- 1 互いの考えを伝え合い、自分の考えを発展させたことをまとめ、全体に発表する。(⑥)
- 2 作品を味わう時の視点(基準)を解釈し、根拠を明らかにして、説明したり活用したりする。(③)

(2) 指導過程

	学習活動	授業形態	指導上の留意点 「 」は予想される反応	○教具/●評価
導入 5分	1 学習内容の確認 ・作品1を見て、第一印象や感じたことを発表する。 ※短時間の鑑賞 2 学習課題の把握	一斉	・資料集・教科書はしまうよう指示する。 ・作品1を見せ、第一印象や感じたことを自由に発表させる。 ・発言しやすい雰囲気作りを心がける。	○作品1資料提示 ○学習ノート
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">学習課題：作品について見方や感じ方を広げ、様々な表現を味わおう。</div>				
展開 40分	3 鑑賞① <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">言語活動⑥：互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。</div>	一斉		○作品1(全員配布) ●鑑① 自分の価値意識をもって味わっている。 表現の意図や特徴を感じ取り、表現しようとしている。
	・作品1について何が描かれているか鑑賞を深める。 ※じっくりと時間をかける鑑賞		・描かれている内容・場面の問いから、徐々に造形に関する問いかけをする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">言語活動③：作品を味わう時の視点を解釈し、根拠を明らかにして説明したり活用したりする。</div>				
	4 鑑賞②《鑑賞の視点の共有》 (1)この絵の中で、不思議に感じたところを見つけて、その理由(または根拠)を自分なりに予測し学習シートに記入する。 (2)班でそれぞれの考えを発表し合い、お互いの考えを交流する。 ・共感したところなどを簡単にメモする。 (3)各班から出た考えを発表し合い、考えを共有する。	個人 班 一斉	・鑑賞の視点を与える。 《構図・色彩・暖色・混色・アクセント・タッチ(絵の具の塗り方)》 ・学習ノートに書かせることで自分の考えを整理させる。 ・これまでに学習した言葉(造形用語)を使って発表するよう促す。 ・異なった見方や感じ方を尊重する。 ・根拠をもって考えるよう促す。 ・他者の考えを聞き、見方や感じ方が広がったことに気づかせる。	○造形用語を提示 ●関① 意欲的に班での話し合いをしている。 ●鑑② 他者の見方、感じ方を多様な見方で認めることができる。
	5 鑑賞③ ・作品1の特徴について考える。 (1)作品1を作品2と比較してよさや表現の違いに気づく。 (2)作品1と作品3を比較してよさや表現の違いに気づく。 (3)作者や作品の特徴について理解を深める。	一斉	・特徴を浮き彫りにするため、他の作品と作品1の拡大図を提示する。 ・作者や作品、表現技法(点描技法)について触れる。	○点描資料提示 ○作品2を提示(補助作品) ○作品3を提示(補助作品)
	6 鑑賞④ ・改めて作品を鑑賞し、感じたことや考えたことを学習ノートに記入する。 ・初めに鑑賞した時の印象や感想も含めて発表する。	一斉	・第一印象と比べて、見方や感じ方が広がったことに気づかせる。	●鑑③ 感じ取った考えを言葉で整理し、まとめ、表現することができる。
終末 5分	7 学習の振り返りとまとめ ・本時を振り返る。 ・学習ノートにまとめを記入する。	個人	・本時の学習について助言する。	
	8 次回の学習内容確認	一斉		

(3) 板書計画

1 板書

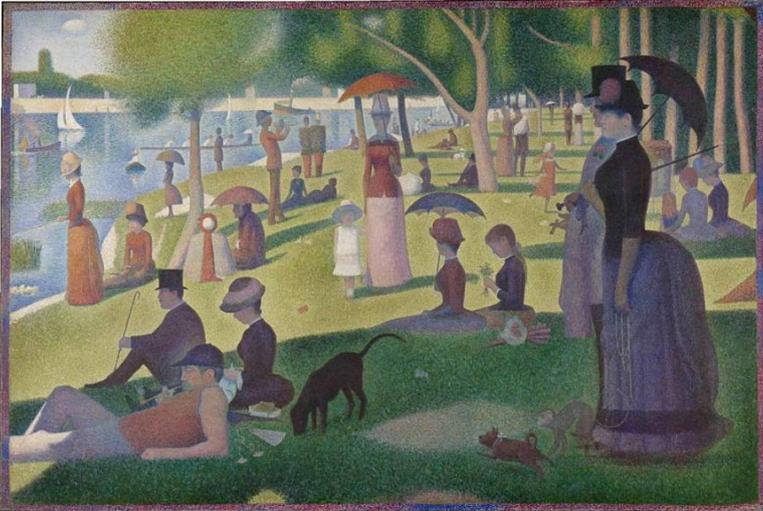
鑑賞学習	「様々な表現との出会い」	作品 2 (補助作品)	作品 3 (補助作品)
学習課題	作品について理解を深め、見方や感じ方を広げ、様々な表現を味わおう。		
○第一印象	・全体的に鮮やか・明るい	作者名	作者名
○作品鑑賞の視点	構図・色彩・タッチ	作品名	作品名

2 ホワイトボード

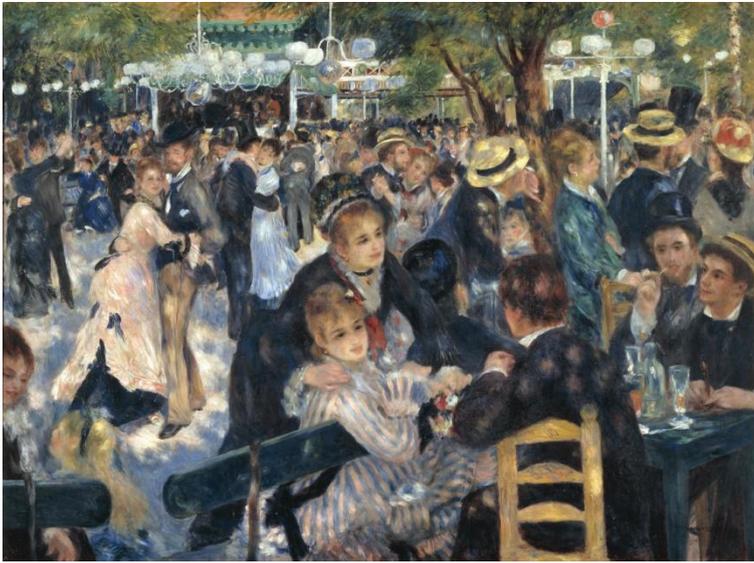
作品 1

《鑑賞作品》

■作品1 ジョルジュ・ピエール・スーラ 「グランドジャット島の日曜日の午後」



■作品2 (補助作品) ルノワール「ムーラン・ド・ラ・ギャレット」



■作品3 (補助作品) フィンセント・ファン・ゴッホ 「タンギー爺さん」

